

# かしま医療過疎

再生先進地からの報告

「生活習慣はましめ。糖尿  
病指標がもう少し下が  
るよう頑張りますよ」。  
糖尿病と高脂血症がある  
60代の女性の電子カルテ  
に、千葉県九十九里町に  
ある片貝薬局の薬剤師、  
富田敷さん(69)が書き込  
んだ。投薬内容や薬剤師  
として気付いた点も付け  
加えた。

④

カルテを管理するの  
は、片貝薬局から車で20  
分ほど離れた同県東金市  
の県立東金病院。電子カ  
ルテは、同病院を中心に、  
地域の診療所や薬局など  
三十力以上をオンライン  
で結んで共有してお  
り、「わかしお医療ネッ  
トワーク」と呼ばれる。  
2001年度に始まっ  
た経済産業省のモデル事  
業で、IT(情報技術)  
を活用した服薬指導は、  
当時全国初の試みだっ  
た。

■ □ ■  
病院や診療所は、患者  
の電子カルテに血糖値な  
どの検査結果、処方する  
薬の種類や量を入力。薬  
局は、患者が訪れると専  
用回線で結ばれたパソ  
コン画面を決められたパ  
スワードや認証サインを  
入力して開き、電子カル  
テを見ながら症状や薬

## 電子カルテ

# 医・薬連携で最適治療

の飲み方、注意点を説明  
する。

一般的な処方せんには  
病名は記されていない  
が、電子カルテの場合、  
検査データや医師のコメ  
ントを見れば、薬剤師は  
病名や症状が分かり、薬  
の変更や投薬量の増減の  
理由も患者に説明しやす  
い。

富田さんは「電子カル  
テ導入前より服薬指導は  
詳細になり、時間も1人  
最低10分と長くなった  
が、最適な治療につな  
がる」と話す。

患者にも好評だ。「病気  
と薬の理解が深まる」「薬  
の飲み残しがなくなる」。  
片貝薬局が加盟する「山  
武郡市薬剤師会」が、電

子カルテによる服薬指導 数年前行ったアンケート  
を受けた患者380人にては、7割超が「満足」  
と答えた。

医師と薬剤師を双方向  
で結ぶ電子カルテは、治  
療効果にも変化をもたら  
している。

電子カルテの導入で、  
東金病院を中心とした医  
療圏内の医師や看護師、  
薬剤師らが集まり、糖尿  
病や内科全般の研究会、  
勉強会を開いていた地域  
の連携はより深まった。  
医療現場では、症状にあ  
った最適な治療や専門医  
の診察が受けられるよう  
患者の紹介が広がり、診  
療所(19床以下)から病  
院(20床以上)への紹介  
率は、約20%から30%超  
まで増加。入院患者の在  
院日数は、平均22日から

15日まで短縮した。  
電子カルテの方が処方  
せんだけの服薬指導よ  
り、血液検査の糖尿病指  
標やコレステロール値な  
どが改善するケースが多  
いという。

■ □ ■  
東金病院から車で30分  
ほど離れた松尾クリニッ  
ク(山武市)は、糖尿病  
患者ら25人の電子カルテ  
を共有する。金子昇院長  
(55)は「東金病院で行う  
専門検査のデータが治療  
の参考になる。複数の診  
療科や病院を受診してい  
る患者の投薬が分かり、  
重複もなくなった」と話  
した。

「わかしおネット」の発  
案者で、東金病院の平井  
愛山院長(60)は「地域の  
医師不足を補い、効率的  
効果的な治療をするに  
は、ITを活用した患者  
情報の共有と連携が欠か  
せない」と強調した。



東金病院と結ばれたパソコン画面がある松尾クリニク  
2009年10月下旬、千葉県山武市